**［認知症サポーター養成講座学校用寸劇シナリオ］**

**事例１：行ったり来たりする（徘徊）**

あきちゃん：（ステージセンターで立っている）

おじいちゃん：（あきちゃんの前を通り過ぎながらキョロキョロおぼつかない足取りで歩く）

家はこっちだったかな？どっちだったかな？

あきちゃん：（おじいちゃんが通り過ぎると独り言っぽく）

あきのうちの近所のおじいちゃんだ～。なんで道に迷ってるんだろう。あきの前を通り過ぎたのにあきのこと全然気づいてないし。おじいちゃん、なんか怖そうだから無視しよっと。はい無～視～。（あきちゃんも歩いてステージ外へ。そしてステージセンターへ戻る。）

おじいちゃん：（あきちゃんの前を再び通り過ぎながらキョロキョロおぼつかない足取りで歩く。）

家はこっちだったかな？どっちだったかな？

あきちゃん：（おじいちゃんが通り過ぎると独り言っぽく）

最近おじいちゃんとよく会うよな。道に迷い、困っててかわいそうだな・・。ちゃんと帰えれるのかな？でも話しかけにくいし、怖いし、やっぱり無視しよう。はい無～視～。

**【解説】**認知症の症状が進み、あきちゃんの近所のおじいちゃんは自分の家の帰り道がわからなくなっています。怖くて勇気が出ず声をかけることができないあきちゃんです。おじいちゃんは道に迷って不安で一杯、頭が混乱しています。疲れ果てて道で倒れる心配だってあります。ではこのようなときにどのようにおじいちゃんに接したらよいでしょうか？次をご覧ください。

あきちゃん：（ステージセンターで立っている）

おじいちゃん：（あきちゃんの前を通り過ぎながらキョロキョロおぼつかない足取りで歩く）

家はこっちだったかな？どっちだったかな？

あきちゃん：（おじいちゃんが通り過ぎると独り言っぽく）

あきのうちの近所のおじいちゃんだ～。なんで道に迷ってるんだろう。あきの前を通り過ぎたのにあきのこと全然気づいてないし。おじいちゃん、なんか怖いけど、ほっておくとかわいそうだな。

　　　　　　おじいちゃん、私、おじいちゃんの近所の「○○あき」です。

おじいちゃん：（あんまり覚えていないというふうに頭をかしげる）

「○○あきちゃん？」覚えていないな。

家はこっちだったかな？どっちだったかな？

あきちゃん：おじいちゃん、おじいちゃんの家知っているよ。

おじいちゃん：そうなんだね。あきちゃんのこと覚えていなくてごめんね。

　　　　　　　声をかけてくれてありがとう。

あきちゃん：おじいちゃんと私の家、近くだから一緒に帰ろうよ。

おじいちゃん：あきちゃんはとても優しい子だね。

あきちゃん：（一緒に歩く。）

　　　　　 （独り言っぽく）勇気を出しておじいちゃんに声をかけて良かった。

　　　　　　おじいちゃんにほめられたし、おじいちゃんを助けることができ

　　　　　　てすごくうれしいな。

**【解説】**あきちゃんが勇気を出して声をかけてくれたことによっておじいちゃんは不安な気持ちが取り除かれ、落ち着きを取り戻すことができ、あきちゃんに優しい声かけまでできるようになっています。あきちゃんが一緒に帰ってくれたことでおじいちゃんは何事もなく無事に帰ることができました。たとえおじいちゃんに声をかけたり、一緒に帰ることができなくても、おじいちゃんの様子をおうちの人に伝えたり、先生に伝えたりすることだっておじいちゃんを助けることにつながります。ぜひ勇気をもって一歩前に踏み出しましょう。

**［認知症サポーター養成講座学校用寸劇シナリオ］**

**事例２：同じことも何度も聞く**

（二人とも椅子に座っている）

あきちゃん：（座ってＤＳで遊んでいる。）

おじいちゃん：（座って新聞を読みながら）あきちゃん、おじいちゃんは明日どこに行く予定だったかな？

あきちゃん：おじいちゃんは、明日公民館に行ってよかよか体操をするって言ってたよ。

おじいちゃん：そうだったね。忘れてたよ。

　　　　　　（新聞を読みながら、しばらくして）おじいちゃんは明日どこに行く予定だったかな？

あきちゃん：またはじまった～。公民館に行ってよかよか体操をするんだよ。

おじいちゃん：そうだった、そうだった。ごめんな。

おじいちゃん：（新聞を読みながら、しばらくして）おじいちゃんは明日どこに行く予定だったかな？

あきちゃん：何回言ったらわかるの、おじいちゃん。公民館に行ってよかよか体操をするって言ってたじゃない（強い口調で）。

おじいちゃん：孫のくせにその横着な言い方はなんだ。先生に話しておくからな（怒った口調で）。

あきちゃん：同じことを何回も聞くおじいちゃんには本当、腹が立つ（怒った口調）。

**【解説】**認知症の方は覚えることができない、すぐ忘れてしまいます。今見たこと、聞いたこと、話したことをすぐ忘れます。誰でも昨日の夕食に何を食べたかを思い出せないことはよくありますが、夕食を食べたこと自体は覚えています。認知症の場合は、食べたこと自体を忘れてしまうのです。誰でも体験していないことを「した」と言われれば相手が嘘をついていると思ってしまいます。そしてそれを繰り返し言われれば、劇のように「悪いあきちゃん」になってしまうのです。では、何回も同じことを聞くおじいちゃんにどのように対応したらよいのでしょうか？続きをご覧ください。

（二人とも椅子に座っている）

あきちゃん：（座ってＤＳで遊んでいる。）

おじいちゃん：（座って新聞を読みながら）あきちゃん、おじいちゃんは明日どこに行く予定だったかな？

あきちゃん：おじいちゃんは、明日公民館に行ってよかよか体操をするって言ってたよ。

おじいちゃん：そうだったね。忘れてたよ。

　　　　　　（新聞を読みながら、しばらくして）おじいちゃんは明日どこに行く予定だったかな？

あきちゃん：公民館に行ってよかよか体操をするんだよ。ところでよかよか体操でどんな体操なの？

おじいちゃん：よかよか体操はおもりを手首につけて、手をこんなふうに横に上げたり（腕の横上げ運動をする）、足首におもりをつけて、足をこんなふうに蹴り上げる運動があるんだよ。

あきちゃん：うわぁ～おもしろそうだね。私にも教えてよ、おじいちゃん。

おじいちゃん：わかった、わかった。それじゃ最初からやってみようかね。おじいちゃんがやるのをよく見ててね。

**【解説】**すぐ忘れてしまう、覚えることができない認知症の方に、「さっきも言ったでしょう」と言っても、思い出すことはできないのです。認知症の方の訴えを素直に聞いてあげて、しっかり受け止めることが大切です。怒ったり、強く反発したりしないでくださいね。そうすることで認知症の方も怒ったりしないで落ち着いた気持ちになることができます。